

## 五箇地区むらづくり推進協議会

花桃園地整備事業 — 休憩施設の設置 —

### 1. 基本データ

- (1) 地区名 五箇地区
- (2) 地区人口 68人  
(平成26年3月1日住民基本台帳)
- (3) 面積 146km<sup>2</sup>
- (4) 地区の沿革

五箇地区は、市街地から約8km東南の位置にあり、西は「日本百名山」の「荒島岳」、東は赤兎山と白山連邦、岐阜県に接し、面積は146km<sup>2</sup>と広大な林野を占める地域。上打波、下打波、東勝原、西勝原の4集落からなっている。

### (5) 実施主体

五箇地区むらづくり推進協議会



### 2. 現状と課題

かつての五箇地区は、林業が栄えるとともに、スキーやキャンプ、登山などのアウトドア・レジャーに、また、風光明媚な「刈込池」や「仏御前の滝」、九頭竜川の「魚止め」などを訪れる観光客が多く、民宿業（現在は1軒が営業）が盛んに行われ、一年を通じて賑わいの絶えない所であった。

しかし、相次ぐ災害やダム建設による移住、

観光客ニーズの変化による観光業の低迷などから人口の流失と少子高齢化が進行し、それに伴い、小・中学校や郵便局、JAの支所が再編計画の中で順次廃止され、地域の活力は衰退していった。



現在は、JR勝原駅のある西勝原区を中心に、東勝原・上打波・下打波の4集落に36世帯69名が生活をしている。また、無雪期には、市街地から畑や山仕事に通う五箇地区出身者の姿も多く見られるとともに、神社では祭りが催されるなどもしている。



このような中、地区内では、むらづくり推進協議会が実施する「花いっぱい運動」により、JR勝原駅周辺を季節の花で飾り、五箇地区への訪問者を出迎えたり、近所の婦人によって30年ほど前から植樹された花桃並木が、春になると“桃源郷”として注目を集め、満開の季節には遠く中京や関西から観光客が訪れるまでになるなど、「豊かな自然を活かした交流」を目指して、地区住民が一体となり“ふるさと五箇”の活性化に向けて取り組んでいるところである。

づくりにも取り組んだ。



【八幡神社下湧水地の再生 (H22)】



【花桃の若木保全 (H22)】

### 3. 事業の内容

平成22年度から3年間の「越前おおの地域づくり交付金事業」では、住民協働による故郷の環境保全と交流人口の増加による地域の賑わいづくりをテーマとし、雑草が生い茂り、埋もれかけた湧水地や不法投棄されたゴミに汚された用水路に階段や遊歩道を設け、来訪者が清流を楽しめる親水空間として再生した。さらに、“桃源郷”と表現される花桃並木を核に、地区全体に花が咲き誇る花木の里



【東勝原区広場サスバリ植樹 (H23)】



雪囲い材料木棚



花桃若木雪囲い



花桃園地整備

【花桃植樹地保全管理 (H23)】



区民の協働活動

【西勝原区共有地の景観整備 (H24)】



花ショウブ園

【西勝原区共有地の景観整備 (H24)】

五箇公民館の北側、花桃並木に続く西勝原区の共有地には、地区住民や五箇地区に縁のある人たちによって植樹された花桃やツツジ、ヤマボウシのほか、花壇には季節の花が咲き誇り、来訪者が五箇の自然を楽しめる園地になっている。

特に、4月中旬からの桜、それに続いて花桃が満開を迎える5月上旬にかけては、大勢の見物人で賑わうことから、「越前おおの地域づくり交付金事業」を活用した環境整備を進めてきたところである。



早春の花桃園地



賑わう花桃並木

今後の「結の故郷づくり交付金事業」では、

この取り組みを継承し、園地の一層の充実と来訪者の利便性向上のため休憩施設（東屋）を設置することにした。

■ 休憩施設設置スケジュール

年度	工 種
平成25年度	基礎工事
平成26年度	本体躯体工事
平成27年度	本体仕上工事

設置にあたっては、予算の都合などから3年間をかけて完成することになった。平成25年度の基礎工事については、専門的な知識と技術が必要であることから業者に依頼したが、日頃、園地の手入れに苦勞をされている地区民が、作業に加わる場面が見られた。



【花桃園地整備 (H25)】

4. 事業の成果

近年、五箇地区の花桃並木は、テレビや新聞などで報道される機会が増えたことから、見物に訪れる人が増えている。保育園や老人施設の園外活動、県外からの花見客などが散策の合間に一息入れる休憩処となり、また、地区住民が集い、訪問者と交流する拠点として活用されることが期待できる。

5. 今後の展望

花桃が満開を迎えた4月28日(日)・29日(月・祝)、住民に五箇地区に縁のある人たちを加えた「お花見隊」による花桃イベント「お花見茶屋」が、昨年に続いて開催された。五箇地区で収穫された芋から手づくりされたこんにやくや里芋の田楽、ぜんざいなどが満開の花桃とともに賑やかに並び振舞われ、大勢の方に楽しんでいただけた。



また、公民館事業では、花桃園地を活用したガーデニング講座に取り組んだ。園地の花壇に、7月はマリーゴールドの苗を移植し、9月には水仙の球根を植えるとともに花桃の種子をポットに仮植した。11月には花桃の若木に雪つりを施した。

この講座には、こうしたガーデニングの体験に加え、住民と参加者がふれあう場を設け

た。7月の炎天下の作業の後には流しそうめん、9月には夏に収穫した花桃の実を漬けたシロップの自家製ゼリーと花桃紅茶、11月にはおにぎりと豚汁を用意し、地区の子どもたちも加わった交流会は賑やかな時間となった。



今後も地区の“宝”を核に、住民と来訪者が交流する機会や場を充実することで、そこから生じる賑わいが“ふるさと五箇”の活力となることが期待される。